# 美術部のひっくり返ったラーメンなどの作品が小野市役所に展示

神戸新聞　2024年12月6日（金）　北播磨版　掲載

ひっくり返ったラーメン、何に見える？

## 小野高美術部 意欲作ずらり

### 市役所で作品展、40点出品

立体作品など力作が並ぶ小野高展＝小野市役所

小野高校美術部員による「小野高展」が小野市役所ウエルカムギャラリーで開かれている。ユニークな立体作品、高校生活の日常を表現したアクリル画や油絵など感性豊かな約40点が並ぶ。13日まで。

1年間に部員が完成させた。

2年河合佳瑛蘭さんは外国語指導助手（ALT）を描いた「純粋をいざなう」、2年山下侑介さんは鯉（こい）の滝登りから連想した「鯉昇り」を出展。1年長谷川朋さんは大好物のオムライスにケチャップで「TOMO」と名前を書いてくれた母親に感謝し「母の愛情」を出した。デジタルイラストの作品もあり、興味深い。

小野高校☎0794・63・2007（坂本　勝）

2年林誉仁さんの立体「海月（くらげ）飯店ぶっかけラーメン!!」は、ラーメンが器ごとひっくり返る一瞬を切り取った。スープや麺、チャーシューなどが大量に流れだす瞬間を表現。「器はクラゲの傘に麺は触手に見えてきませんか？　どちらにも見える面白さを感じ取ってほしい」と解説を付けた作品を市民に見てもらおうと開き4回目。

**ＳＳＨ学術講演会に第１回「神戸賞」の東京大学の浦野教授を招いて講演会と交流**

神戸新聞　2024 年 11 月 30（土）北播磨版　掲載

## 「神戸賞」第１回大賞の浦野・東大教授 小野高で講演

# がん発見、根治へ 化学の力 無限大

化学の魅力を生徒に語る浦野泰照教授＝いずれも小野高校

体内の細胞を可視化するバイオイメージング技術の研究者で、学術賞「神戸賞」の第１回大賞に輝いた浦野泰照・東京大大学院薬学系研究科教授が、小野市西本町の小野高校で講演した。「化学は無限の可能性があり、社会に貢献できる」。ユーモラスな語りと実験を交えて、生徒たちをケミカルバイオロジー（化学生物学）の魅力に引き込んだ。（坂本　勝）

## 体内細胞の可視化技術を解説

浦野教授はがん細胞などを光らせる分子の設計法を確立。4月、医療産業都市のある神戸市の名を冠して創設された第1回神戸賞の大賞を贈られた。

小野高は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けている。講演会は20日、「化学の力で見えないがんを見つけて治す」と題し、1、2年生らに向けて行われた。

「有機化学は考えれば分かる学問。暗記しては駄目だ」と話す浦野教授。元素記号の周期表を画面に映し出し、周期表の元素記号を並び替えると、UR（ウラン）、RA（ラジウム）、N（窒素）、O（酸素）…。九つの元素のローマ字で「うらの・やすてる」と自身の名前を表した。「化学の星の下に生まれてきた人は必ずいる。自分も『もうこれは化学をやらなきゃいけない』と思った」

東大薬学部に進み、現在は薬学部長も務める。薬学も関わる医学研究の目指すところは「人の病気を治し、健康に奉仕する」ことだと話した。

自らの研究分野については絵本「ウォーリーをさがせ！」をたとえに分かりやすく説明した。大勢の人混みの中から、赤と白の横じま模様の服を着た主人公などを見つけ出す物語で「無色の酸素や窒素が見えないように、顕微鏡を使っても全ては見えない。でも、細胞の中に感度の良い蛍光色の目印を付ければよく見えるようになる」。

がん細胞に入ると蛍光色に光るプローブ（目印の役割を担う物質）を作れば無色透明の中でも見分けることができる。神戸賞の受賞にもつながった研究成果は、がん細胞を全て除去することが大事な外科手術に貢献している。

「日本人の2人に1人はがんにかかり、約40年間、死因の1位を占めている。化学で何ができるかを考えてほしい」。浦野教授は生徒たちにそう問いかけて「性質がバラバラのがんを克服するには薬学や物理、医学など分野横断的な研究が必要だ」と話した。

教室でのサイエンスカフェでも生徒と交流した

## 神戸賞を創設、人材育成など貢献

## 中谷財団、小野高の部活動にも支援

浦野泰照教授が第1回大賞を受けた神戸賞は「中谷財団」（東京）が創設した。小野高校で開かれた講演会も同財団の支援を受けて実現したものだ。

中谷財団は医療用検査機器を世界展開するシスメックス（神戸市中央区）創業者の中谷太郎氏が1984年に私財を投じて設立。研究者に対する助成▽大学院生の奨学金▽国際学生交流の支援▽小中高の科学技術教育振興への助成―など、若手人材の育成や研究者の裾野拡大を図ってきた。

財団設立40周年を迎えた2024年、生命科学と理工学の融合境界領域に助成分野を広げるとともに新設したのが神戸賞だ。

小野高校も生物部や天文部が中谷財団の支援を受けている。小倉裕史（ひろし）校長は「浦野教授から『一人でも多くの人が化学の道に進むことを願い、将来、皆さんと一緒に研究できることを楽しみにしている』とメッセージをいただき『ぜひ東京大学に来てほしい』と強く言われた」と生徒に紹介し「1人でも2人でも、10人でも20人でも東京大学を目指して」と希望した。（坂本　勝）

**ビジネス探究科３年生が地元企業の商品をＳＮＳを活用して支援し売り上げ増加に貢献**

神戸新聞　2024 年 11 月６日（水）北播磨版　掲載

## 小野高ビジネス探究科３年生、地元新商品の販促を支援

# SNS積極活用 売り上げ増貢献

北播磨の新商品を支援するため、小野高校（小野市西本町）ビジネス探究科3年生のブランディング班が交流サイト（SNS）を使ってPRに取り組み、計約140万円の売り上げにつなげた。1年間の学びを披露する同科の課題研究発表会で報告された。3年生7班のうち1位に選ばれ、2位の食と農業班とともに、来年2月1日の全国高校生徒商業研究発表大会県大会に出場する。（坂本　勝）

■小野・共進牧場 無糖ヨーグルト

■加西・狛犬ジェラート とうもろこしジェラート

北播磨の新商品販売を後押しし、発表会で１位になったブランディング班＝小野高校

## 加西市での平和記念祭に放送部の生徒が司会

神戸新聞　2024 年 10 月 30 日（水）北播磨版　掲載

加西

# 戦死した特攻隊員ら悼む

## 鶉野飛行場跡 平和祈念祭に50人

平和祈念の碑前で献花する参列者＝加西市鶉野町

太平洋戦争末期、旧姫路海軍航空隊の鶉野飛行場（加西市鶉野町）で訓練を受け、戦死した特攻隊員らを悼む「鶉野平和祈念祭」が、同飛行場跡の平和祈念の碑前で営まれた。市内外から参列した遺族や自衛隊関係者ら約50人が戦火に散った若者たちを思い、平和を誓った。

同飛行場はパイロットの養成を目的として1943年に建設された。戦況の悪化に伴い45年、神風特別攻撃隊「白鷺隊」が編成され、若者たちが沖縄方面に出撃。63人が命を落とした。多くは10、20代だった。

祈念祭は同飛行場の歴史などを調査する鶉野平和祈念の碑苑保存会（深田真史代表理事）や市内団体などでつくる実行委員会が主催し、26回目。

式典は27日にあり、小野高校放送部員が「親孝行の模倣だにできずに散るのが残念です」などと隊員が家族に送った最後の手紙を朗読した。

沖縄戦で亡くなった中西要少尉候補生のめい、奥村千恵子さん(77)＝京都府宇治市＝は「母は叔父のことを『きょうだい思いのやさしい子やった』と言っていた。大事な弟を戦争に奪われた母の悔しさを思うと涙が出る」と目を潤ませた。

（敏隆潤子）

**小野高生が他校の生徒と小野市での「ボランティアフェア」に参加**

神戸新聞　2024 年 10 月 25 日（金）北播磨版　掲載

# ボランティア伝えるフェア

## 27日、小野

小野市社会福祉協議会は27日午前10時～午後4時、市うるおい交流館エクラ（中島町）で「ボランティアフェア」を開く。点字や手話などの体験コーナーを設け、参加者同士の交流を促し多彩な活動を紹介する。

舞台には鶴亀こども園やボランティア団体が登場し、朗読劇や手話歌などを披露する。小野高校や小野福祉工場、ボランティア団体は体験・展示コーナーを出す。市更生保護女性会はバザーを開催。小野工業高生がデザインした市社協のキャラクター「おの社協戦士ウイングレッド」と写真撮影もできる。スタンプラリーや景品抽選会、キッチンカー出店などもある。

歌手木山裕策さんの講演会とミニコンサートは申し込みを既に終了。市社協☎0794・63・2575

## ビジネス探究科３年生が播磨農業高校のイモを使ってお菓子の商品開発に貢献

神戸新聞　2024 年 10 月 18 日（金）北播磨版　掲載

### 出店の「お菓子のしごと」
# 小野高生と開発した商品も

おの恋楽市楽座に出店する「お菓子のしごと」
＝小野市新部町（提供）

「おの恋楽市楽座２０２４」には、小野高校ビジネス探究科の３年生11人が地産地消の商品開発に協力した焼き菓子店「お菓子のしごと」（小野市新部町）も出店する。

同店は「家庭でお母さんが作るような飽きのこない素朴なお菓子を作ろう」と２０２２年３月にオープン。「新型コロナウイルス禍の中、何か新たなことに挑戦したい」と岩本明美さん(50)が、会社勤めの傍ら自宅ガレージの一角を店舗に改装した。

当初は日曜日に営業しており、平日のコンピューター関連とは異なる週末の仕事として「お菓子のしごと」を店名にした。現在は会社を退職、長女遥（はるか）さん(26)、次女穂（みのり）さん(24)もお菓子作りに加わり、木金土日の午前11時～午後5時に営業する。

小野高生とは今春、小野商工会議所の事業所連携プロジェクトを通じて知り合った。播磨地域の農産物をお菓子に活用しようと共同開発。小野市のイチジクや加東市のモモを使うお菓子を作った。岩本さんは「焼き菓子にモモを使う発想が自分にはなかった。モモをジャムに加工して利用する高校生のアイデアが良い経験になった」と話す。

生徒は同店のオンラインショップのサイトも作成。11月には播磨農業高校（加西市）の生徒が育てたサツマイモのお菓子の出店も予定する。

おの恋楽市楽座ではマドレーヌやクッキー、パウンドケーキなど人気の定番商品も並べる予定だ。出店場所は産業ＰＲ&グルメエリア（アルゴ東駐車場）。インスタグラム（@okashinoshigoto）で発信中。

（坂本　勝）

## ＳＳＨ事業で北播磨等の他校も招いて「ＤＮＡ情報を探究活動に利用する」実験を開催

神戸新聞　2024 年 10 月３日（水）北播磨版　掲載

マイクロピペットを使って実験する県内の高校生ら＝小野高校

# 自分の遺伝子解析に挑戦

## ＳＳＨ・小野高校 県内８校の25人が実験

小野高校（小野市西本町）に県内８高校の生徒25人が集まり、自分の遺伝子を解析する実験に取り組んだ。アルコールの代謝やパクチー（香菜）のにおいに関わるＤＮＡを、表現型（発現する形質）と遺伝子型（形質の元になる遺伝子の組み合わせ）の両方で分析。科学への関心を高めた。

兵庫県では文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）指定校と県教育委員会がサイエンスフェアｉｎ兵庫「咲いテク（サイエンス＆テクノロジー）」事業を推進。先進的な科学技術や理数教育を学んで科学的な思考や能力を身に付け、国際的に活躍することを目指す。

今回の実験はＳＳＨ校の小野高校で「ＤＮＡ情報を探究活動に利用する」と題して８月27日に開催。北播磨のほか姫路東、姫路西、龍野、長田、神戸高校の生徒も参加した。

生徒は兵庫教育大大学院学校教育研究科の笠原恵教授（分子生物学）の指導を受け、自分の口腔上皮からＤＮＡを抽出し、アルコールの代謝やパクチーのにおいに関わる遺伝子を分析。ＰＣＲ法や電気泳動法を体験した。

北条高校普通科２年の櫻井稜大さんは「パクチーは野菜の爽やかな香りがし、アルコールには強くないとの結果だった。学校でしたことのない実験に興味を持った」と話し、西脇高校科学教育類型２年の小寺良菜さんは「微量の液体を正確に測り取るマイクロピペットが使いやすかった。将来は研究職に就きたい」と意気込んだ。（坂本　勝）

科学探究科が「ソロモン」の植物研究で「高校生バイオサミット」で厚生労働大臣賞

（２年連続で最優秀賞の快挙）

神戸新聞　2024 年９月 18 日（水）北播磨版　掲載

# 香る植物研究 小野高に大臣賞

## 「高校生バイオサミットｉｎ鶴岡」

## 5種のクロモジ、分子や分布地域で分類

全国の高校生が生命科学の研究成果を競う「高校生バイオサミットｉｎ鶴岡」で、小野高校（小野市西本町）「香り班」の生徒による研究が、最上位の5校に贈られる大臣賞の一つ、厚生労働大臣賞に輝いた。取り組んだテーマは、クスノキ科の植物クロモジの分類について。昨年度の卒業生はクロモジの香りがシックハウス症候群に有効とした研究で同賞を受けており、同校は2年連続の受賞となった。（坂本　勝）

同サミットは山形県鶴岡市に先端生命科学研究所を置く慶応義塾大学などの実行委員会の主催で14回目。書類審査を経て18都道府県の63校178人がオンラインで95作品を発表し、通過した92人の54作品が8月21～23日の決勝に臨んだ。

決勝は新型コロナウイルス禍を挟んで5年ぶりに対面のポスター発表で実施された。4分間の発表と質疑応答を同研究所などの研究者が審査した。

大臣賞を受けたのは科学探究科2年の岡野柚花（ゆずか）さんと甘中未紗（みさ）さん、1年の山本純也さんら。「香りを持つクロモジ類の分類学的研究」をテーマに据え、3年生の研究課題を引き継いだ。

クロモジは北海道南部から九州まで日本各地に分布する。種によって香りが異なり、文献によって分類方法が違う。

3人は香り成分の違いを調べた上、分子系統も解析した。クロモジ類の5種は近縁だが、クロモジ、オオバクロモジ、ヒメクロモジの3種とケクロモジ、ウスゲクロモジの2種に分けられるのではないかと考察し、分析した。その結果、ケクロモジなど2種と残り3種で塩基数の違いが見られることや分布地域で塩基配列に違いがないことを突き止めた。

光度計を使う実験を60回以上するなど実験数が圧倒的に多かったことや、科学的視点から分類を探究したことで高い評価を受けた。

岡野さんは「審査員一人一人と近距離で対面し、親近感を持ってもらえるように心がけた」、甘中さんは「予選で回答に詰まった部分を改善し、新幹線の中でも練習した」と振り返った。

厚生労働大臣賞を受けた（左から）甘中未紗さんと岡野柚花さん、山本純也さん＝小野高校

## 63校が95作品発表、決勝に54作品

## 実験数、科学的視点で高い評価

## 「抗菌、リラックス効果活用したい」

生物部の山本さんは「落ち着いて質問に答えられた」と話した。3人は「3年生の先輩が私たちに成果を残してくれたおかげ」と感謝し「抗菌やリラックス効果のあるクロモジの活用に向け、探究を続けたい」と意気込んだ。

（隔年でオーストラリアの訪問と受け入れを実施）

神戸新聞　2024 年９月 14 日（土）　北播磨版　掲載

# 豪州姉妹校から交換留学生

## 小野高 19日まで滞在、交流

英語で歓迎の言葉を述べる西村彩花さん（右）とブレントウッド校の生徒＝小野高校

小野高校（小野市西本町）で、オーストラリア・ビクトリア州から訪れた短期留学生の歓迎会が開かれた。姉妹校のブレントウッド・セカンダリーカレッジの生徒13人と引率教員３人が小野高校の全校生約８１０人から盛んな拍手を受けた。

新型コロナウイルス禍による3年間の中止を経て相互訪問を再開。昨年は小野高校の22人が現地を訪れた。ブレントウッド校からの訪問は12回目で、一行は9日夕、小野高校正門前の同窓会会館「蜻蛉（せいれい）会館」でホストファミリーの出迎えを受けた。

歓迎会は10日にあり、小野高校の小倉裕史校長は「22年前からの相互訪問の歴史や日本、小野高校の良い所をいっぱい伝えてほしい」と希望。ブレントウッド校のソーニャ・アードレー副校長は「迎え入れていただいて感謝します」と述べた。同校生徒のアッシャー・トリデーさんは流ちょうな日本語で、小野高校2年の西村彩花さんは英語であいさつ。小野高生は歓迎の意味を込めて全員で校歌を斉唱した。

一行は19日朝まで滞在。小野高生と一緒に授業を受け、美術や英語実習の特別講座や家庭研究部、ESSの部活動も体験する。また小野高生の家庭で寝食をともにし、文化交流を楽しむ。

（坂本　勝）

**ビジネス探究科２年生が県英語スピーチコンテストで２部門で最優秀賞で全国大会へ**

神戸新聞　2024 年９月 13 日（金）　北播磨版　掲載

# 小野高の２人 全国大会へ 「楽しみたい」

## 県高校英語スピーチコンテスト

## 最優秀賞 喜田さん 藤原さん

県高校商業教育協会主催の「第41回高校英語スピーチコンテスト」で、ともに小野高校ビジネス探究科2年の喜田つぐみさんがレシテーション（課題暗唱）の部で、藤原愛佳さんがスピーチの部で、それぞれ最優秀賞に輝いた。15日に東京で開かれる「全国商業高校英語スピーチコンテスト」に県代表として出場する。（坂本　勝）

英語スピーチコンテストで表彰された(右から)喜田つぐみさんと藤原愛佳さん、花見美咲さん＝小野高校

## 奨励賞に花見さん

同コンテストには全国商業高校長協会の会員校の生徒が出場でき、ビジネス探究科（商業科、国際経済科を再編）がある小野高校も例年出場する。県予選を兼ねた大会は7月13日に流通科学大学（神戸市西区）であり、課題暗唱に34人、スピーチに14人が出場し、3分半の発表時間で競った。

喜田さんは五つの課題から「デザートは別腹」を意味する英文を選んで発表。身ぶり手ぶりも交えた表現で、最高の評価を得た。「きちんと暗記した。単に暗唱するだけでなく、表現や言葉の意味にもこだわった」と振り返り、全国大会に向け「表現力はある方だと思う。外国語指導助手（ＡＬＴ）の指導を生かしたい」と意気込む。

藤原さんはスピーチで最後に登壇。日本の大学入試のあり方を見直し、公平な機会をーと学力テストの導入を呼びかけた。少子化が進む中、優秀な学生を早く確保しようと大学で推薦入試が増える中、大学入学の国際資格と認められた英国の統一試験を参考に、共通テストで機会均等を図る必要性を訴えて評価された。「練習の時から感情を込め、自分らしさを出そうと心がけた。全国大会の舞台を楽しみたい」と話す。

スピーチの部には、同科2年の花見美咲さんも出場。人工知能（ＡＩ）について学校で学ぶ必要性を発表し、優秀賞に次ぐ奨励賞に選ばれた。「焦って2回ぐらい止まってしまったが、賞をもらえてうれしい」と喜んだ。

**全国総合文化祭出場の美術部２年生の作品が、兵庫県教育委員会に展示され感謝状贈呈**

神戸新聞　2024 年８月 21 日（水）　掲載

# 絵画や書の力作 県庁彩る

## 中高生６人に教育長感謝状

教育長感謝状を受け取った生徒＝兵庫県庁

兵庫県教育委員会は20日、県庁3号館（神戸市中央区）の県教委フロアに飾る絵画や書を手がけた県立高校・特別支援学校中学部の生徒6人に教育長感謝状を手渡した。いずれも全国高校総合文化祭などに出展された力作で、同日展示を始めた。

6人は、上田七海さん（兵庫）▽勝間日菜さん（北須磨）▽佐々木暖愛さん（小野）▽寺口咲良さん（三木東）▽中川実優さん（洲本）▽濵部陽介さん（芦屋特別支援）。

細くキレのある筆致で表現された書や、愛用してきた眼鏡を重ねるように掛けた自画像など個性あふれる作品がそろった。

贈呈式では、藤原俊平教育長が作品を称賛し、一人一人に感謝状を手渡した。

新聞を読む祖父の姿を油絵で描いた勝間さんは「大好きなおじいちゃんをこれからいろんな人に見てもらえると思うとうれしいです」とほほ笑んだ。

（大高　碧）

**ビジネス探究科３年生が共進牧場と狛犬ジェラートと連携して商品を販売**

神戸新聞　2024 年８月 18 日（日）　掲載

# 小野高生、ＣＦで販売合戦

## キャッチコピー考え売り上げ競う

小野・共進牧場
砂糖不使用ヨーグルト

VS

加西・狛犬ジェラート
とうもろこしジェラート

小野高校（小野市西本町）ビジネス探究科の３年生が、小野市の共進牧場と加西市の狛犬ジェラートの新商品を購入型クラウドファンディング（ＣＦ）で販売している。地域活性化に貢献する学習の一環で２班に分かれて販売促進し、売り上げを競う。支持を集めるのは共進牧場の「リッチザヨーグルト砂糖不使用」か、狛犬ジェラートの「とうもろこしジェラート」か。軍配はいかに？

（坂本　勝）

同科は2022年度から起業家教育に取り組む。ＣＦ販売は東京のデザイン会社代表で卒業生の丸山大貴さん(32)が発案。同科コミュニティデザイン類型の生徒が地元企業と連携し、オンラインで新商品を販売し企業のＤＸ推進を図る。生徒は親しみのある地元企業の商品をＰＲ。収益を企業に提供する試みは全国的にも珍しいという。

「リッチザヨーグルト砂糖不使用」は同校の下山竜輝さん、梅田野乃果さん、片山陽葵さん、内藤煌さんたちが推奨する。「関東では入手困難！兵庫県民が愛する共進牧場が作った、関西で大人気の幻のヨーグルト」をうたい文句にＣＦを開始。目標金額を既に超えて好発進した。

クリームチーズのような濃厚さでパンにも塗れるヨーグルトとして紹介。「スプーンですくって裏返しても落ちない」と固形感や弾力、独自の食感を強調した。

加糖の従来品は高級スーパー「成城石井」で22年に売り出された。人気が出る一方、無糖タイプを求める声も多く、今回のＣＦで新商品を販売した。メンバーは「無糖の販売でスイーツだけでなく、サラダやドレッシング、フライドポテトのソースなどアレンジが広がる。共進牧場の牛乳を子どもの頃から飲んできたので恩返しのような気持ち」と声をそろえる。

対する「とうもろこしジェラート」は梶尾彩智さん、増岡克哉さん、王子心暖さん、中田聖莉奈さんたちが推す。狛犬ジェラートは八王子神社（加西市田谷町）境内で営業。共進牧場で飼うジャージー牛の牛乳を使った濃厚なジェラートなどが人気を集める。今回は糖度が20％もある地元産トウモロコシを使うジェラートの販売を16日から始めた。

トウモロコシは地域密着型農業に取り組む「よしよし畑」代表の久世継義さんが育てる。18年に加西市へ移住した。有機肥料の魚かすを使って作物の甘みやこくを増し、甘さが乗っている朝採りのトウモロコシ収穫にこだわる。

同科のメンバーは「夏の暑さで食欲がなくても朝にアイスを味わうだけで脳の働きが良くなる。採れたてトウモロコシのおいしさをぎゅっと詰め込んだ絶品ジェラートをぜひ味わって」と宣伝。「神社境内のジェラート店は加西市内では知られているが、全国的な知名度は低い。農業に力を入れている加西市のＰＲにもつなげたい」と意気込む。

購入支援は国内未発売の新商品を先行販売するサイト「Ｍａｋｕａｋｅ（マクアケ）」で。リッチザヨーグルト砂糖不使用は８月30日まで、とうもろこしジェラートは９月16日まで。

それぞれ推奨する新商品をＰＲするビジネス探究科の３年生＝小野高校

神戸新聞　2024年８月10日（土）北播磨版、８月７日（水）西播磨版　掲載

# 小野高と県立大工学部が協定

## 高校生の学力向上など連携

兵庫県立大学工学部（姫路市書写）と小野高校（小野市西本町）は、学生と生徒の交流や、教育活動での連携を深める協定を結んだ。同高OBの大学生が構内を案内するキャンパスツアーや、同学部のカリキュラムを紹介する出前講座などを予定。高校生の学力向上を図るほか、同高から同大への志望者増にもつなげる。

同高は、先進的な理数科教育に取り組む文科省指定の「スーパーサイエンスハイスクール」の活動を通して、これまで同大教員の指導を受けてきた。同高に工学部出身の教員が少ないことなどから、生徒に工学系の学びに対する理解をより深めてもらおうと、同大に協定締結を打診した。

今後、同大が同高の教育活動に協力するほか、高校生への高度な学習機会の提供などを行う。具体的にはまず8月に、同高の生徒や教員が、同校出身の大学生から学生生活の様子を聞いたり、研究室を見学したりするツアーを催す。

7月29日に同大姫路工学キャンパスで締結式があり、藤沢浩訓学部長と、同高の小倉裕史校長が協定書を交わした。小倉校長は「出張講座なども予定しており、生徒たちの進路選択に役立つはず」と期待を込める。藤沢学部長は「2年前には新学舎も完成した。ぜひきれいなキャンパスを見てもらいたい」と呼びかけた。（成　将希）

協定書にサインする兵庫県立大学工学部の藤沢浩訓学部長（左）と小野高校の小倉裕史校長＝兵庫県立大学姫路工学キャンパス

放送部３年　　生２人が全

**国高等学校野球選手権大会の甲子園の開会式と閉会式の司会担当**

神戸新聞　2024 年８月４日（日）　掲載

# 声で支える甲子園の熱気

## 司会に小野高の山口さん（開会式）、藤本さん（閉会式）

### 7日開幕の高校野球　放送部での夢かなう

甲子園球場（西宮市）で7日に開幕する第106回全国高校野球選手権大会。小野高校（小野市西本町）でともに放送部3年の山口彩葉さん(17)が開会式、藤本朋花さん(18)が閉会式の司会をそれぞれ担う。「甲子園の司会を務めたくて放送部に入部した」と声をそろえる2人。夢の実現を喜び、本番に向けて入念に準備を進める。

（坂本　勝）

開会式と閉会式の司会者は、NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会のアナウンス部門上位入賞者から選ばれる。6月に神戸学院大学ポートアイランドキャンパス（神戸市中央区）であった県大会決勝のアナウンス部門で山口さんは準優勝し、藤本さんは3位で優秀賞を得た。

大会の予選では校内ニュースの原稿を読む。山口さんは全国大会に出場するダンス部の活動について伝えた。部員は創作ダンスに取り組み、振り付けや衣装も自分たちで考え、作っている。強い精神をテーマにしながら難しい表現に挑む部員の挑戦を心の中まで描こうと努めた。「ダンス部の活動がよく伝わってきた。ハキハキとしていた」と評価を得た。

甲子園の司会に向け、練習する山口彩葉さん（左）と藤本朋花さん＝小野高校

藤本さんは陸上走り幅跳びで全国高校総体や国体にも出場した同校3年の藤本涼哉さんを取り上げた。昨年の高校総体で入賞を逃した後も懸命に練習する姿を伝えた。「安定して伝えるという自分の持ち味を意識して読めた」と振り返る。

山口さんは予選で1位だったが、決勝では準優勝者として名前が呼ばれ「悔しかった」と言う。一方の藤本さんは兵庫県高校総合文化祭で優勝し、「半年間、追いかけられる立場だった。恥じないような結果をと全力を出した結果」と受け止めた。

県内高校放送部の名門、小野高から全国高校野球選手権の司会が選ばれたのは6年ぶり。山口さんは緑が丘中（三木市）でソフトボール部、藤本さんは社中学校（加東市）で剣道部だった。山口さんは「明るく笑顔でアナウンスを務め、開会式を盛り上げたい」、藤本さんは「閉会式は決勝の15分後。球場に残る熱気を感じながら、全ての出場校をたたえられるように思いのこもった司会を」と誓った。

**岐阜県で開催の全国高等学校総合文化祭に５部門（放送部・文芸部・美術部・天文部・書道部）で出場の快挙**

神戸新聞　2024 年 7 月 22 日（月）　北播磨版　掲載

# 放送 文芸 美術 天文 書道 5部門
# 小野高9人 全国総文へ

「文化部のインターハイ」に位置づけられる第48回全国高等学校総合文化祭に、小野高校（小野市西本町）の3年生9人が参加する。放送、文芸、美術、天文、書道の各部で、5部門への出場は昨年度に続き、過去10年間で最も多い。兵庫県高校総文で優秀な成績を収めた9人が、部活動の集大成に臨む。（坂本　勝）

## 31日～8月5日 岐阜で開催

全国総文は高校生約2万人が集う芸術文化活動の祭典。開催地は47都道府県を巡り終えて2巡目に入り、今年は31日～8月5日、岐阜県で開かれる。

小野高放送部からは県総文のアナウンス部門で金賞1位に輝いた藤本朋花さんが参加する。同部からは5年ぶりの出場となる。

県総文で、未来食として注目される粉末コオロギ入りのポップコーンについての原稿を読んだ。自身と同じビジネス探究科生の取り組みで「大勢に知ってほしい、との思いを込めた」。全国総文では自宅のある加東市特産のこいのぼり「播州鯉」について書いた原稿を読む。「幼少時から親しむ播州鯉を全国の参加者に伝えたい」と意気込む。

文芸部の井上瑞貴さんは作品「リコレクション」が県総文で優秀賞。「空間に引き込まれたように感じる時がある／それは昼間に一人踏切待ちをしている時で／通り雨に打たれて濡れゆく時だった」―と始まる印象的な詩で、最優秀には一歩及ばなかったが、繰り上げで全国出場が決まった。

全国では「空っぽ」を意味する「がらんどう」の詩を出して参加者と意見交換する。「日々の感性、思い出のかけらを描いた作品で交流したい」

美術部は絵画の佐々木暖愛さんとデザインの黒田百合子さんが参加。同部として20年連続全国総文出場の歴史をつないだ。

佐々木さんは油絵「Myコレクション」で、自身が使ってきた七つの眼鏡を少しずつずらしながら一度にかけた姿を描いた。「昔からかけていた眼鏡は自分の個性。アイデアが良かった」と振り返った。黒田さんはデザイン「トンボフェス2024」について「デザインに時間をかけ、色は茶色ほぼ一色にした」という。「他校の生徒と作品について語り合うのが楽しみ」と声をそろえた。

天文部は昨年7月に成功した小惑星観測と解析結果を発表する。小林勇作部長、発表を担当する横山優明さんと藤井凰綺さんに、長澤優輝さんが加わった。

全国24カ所中、観測に成功したのは同部と西脇市の「テラ・ドーム」の北播磨2カ所だけだった。長澤さんは「感動した。しっかりした論文で全国でも認められたい」。他の3人も「テラ・ドームのデータも加え、小野高校として一から解析し、調べた成果を正確に伝えたい」と意気込む。

書道では増田かん菜さんが楷書の大作「造像記」を出展する。

各部門の日程や開催会場などは「清流の国ぎふ総文2024」のホームページに掲載している。

## 放送部「特産こいのぼり全国に伝えたい」

## 天文部「観測、解析、調べた成果を正確に」

全国高校総文に参加する小野高校の9人＝小野市西本町

ビジネスライセンス部が珠算と電卓の両部門で団体・個人で全国大会出場の快挙

神戸新聞　2024年6月24日（月）　北播磨版　掲載

# 小野高 初の完全V

## 高校ビジネス計算競技県予選 珠算・電卓部門

第71回全国高校ビジネス計算競技大会県予選（神戸新聞社後援）で、小野高校（小野市西本町）が珠算と電卓の両部門で団体と個人総合の完全優勝を初めて果たした。団体優勝は電卓で6年連続、珠算で3年連続。個人総合優勝は珠算が7年ぶり、電卓が2年連続。各部門3人ずつが横浜市の横浜武道館で7月30日にある全国大会に出場する。（坂本　勝）

県予選は県高校商業教育協会が主催。明石市の明石商業高校で5月25日に開かれた。各部門で応用計算や読み上げ算、読み上げ暗算の種目別と総合の競技があり、事務仕事に必要な計算の速さや正確さを競った。

珠算部門には5校の15人が参加した。小野高は3年藤井航希さんが430点を挙げ、応用計算と読み上げ暗算で1位となり、個人総合で初優勝した。3年今枝愛里さんは応用計算で2位となり、360点を挙げて個人総合3位に入った。

ただ、小野高のビジネスライセンス部に珠算は3年生2人と1年生4人のみ。2年生はいない。1年生の出来に懸かる中、1年井上和奏さんが健闘し、全国大会への切符を得た。

珠算と電卓で団体・個人とも初の完全優勝を果たしたビジネスライセンス部員＝小野高校

## 団体と個人総合
## 6人が来月の全国大会へ

2年連続で全国大会に出る藤井さんは「読み上げ算でミスをしたが、個人総合優勝は満足できる」と振り返った。4、5歳の頃から同じそろばんを使い続けているといい「手になじんだそろばんでないと受け付けない」とこだわる。今枝さんは「勉強と部活の両立が目標。『もっとできたはず』という反省をゼロにしたい」、井上さんは「応用計算でできない問題が多い。正答率を高めたい」と誓った。

一方、電卓部門には8校の46人が参加。個人総合の1～3位を小野高が独占する中、1位は460点、3位は430点で2人ずつが並び、順位決定戦（同点決勝）で再戦する激戦となった。1位決定戦は2年多鹿ちひろさんと3年岩崎結子さんによる小野高対決となり、解き終えた多鹿さんが先に手を挙げて優勝、岩崎さんが2位になった。2年木下裕夢さんは県立西宮高生との3位決定戦を制し、団体優勝に花を添えた。

多鹿さんは「同点決勝はじっとり汗をかいて緊張した。『いけた』という確信があって手を挙げた」、岩崎さんは「大会で緊張するタイプで心臓がバクバクした」と激戦を振り返った。木下さんは「大会前日から調子が良かった。全国大会でも調子を維持し、決勝に進んで結果を残したい」と目標を語った。

**ビジネスライセンス部が高校ビジネス計算競技大会県予選で珠算も電卓も団体優勝**

神戸新聞　2024 年５月 26 日（日）　掲載

## 高校ビジネス計算競技大会県予選

# 61人が速さと正確さ競う

第71回全国高校ビジネス計算競技大会の県予選（神戸新聞社後援）が25日、明石商業高校（明石市魚住町長坂寺）であった。県内7校の生徒61人がそろばんや電卓を駆使して、事務仕事に必要な計算の速さや正確さを競った。

県高校商業教育協会（神戸市垂水区）の主催。珠算と電卓の部門があり、それぞれ総合競技と、応用計算や読み上げ算などの種目別競技が行われた。

生徒たちは緊張した表情で電卓やそろばんに向かい、次々に出題される計算問題を解いていった。

7月に横浜市である全国大会の団体の部には、珠算、電卓のいずれも小野高校が出場を決めた。

（森　信弘）

同校を除く個人の全国大会出場者は次の通り。

（敬称略）

【珠算】小林侑樹（県西宮）
喜輪理奥汰（姫路商）
【電卓】鍬形夏海（県西宮）
妻鳥琴真（明石商）

本番開始前に計算の練習をする生徒たち＝明石商業高校

**書道部３年生が中国の作品を書き上げ全国高等学校総合文化祭に出展**

神戸新聞　2024 年５月 11 日（土）　北播磨版　掲載

# 書の大作 青春集大成

## 中国の古典「造像記」全国高校総文へ出展

小野高校（小野市西本町）書道部部長で3年の増田かん菜さん(17)が、高校生活の集大成として、中国・北魏時代の楷書の大作「造像記」を書き上げた。高さ8尺（約2・4㍍）、幅2尺（約0・6㍍）の紙1枚に2年間練習し続けた字体で約600文字を一画一画、丁寧にしためた。全国高校総合文化祭の書道部門に同校を代表し出展する。（坂本　勝）

一画一画を丁寧に書いた大作「造像記」と増田かん菜さん＝小野高校

### 小野高書道部長・増田さん

## 鋭い字体「かっこいい」

増田さんは母三七子さんが書道教室を開いており、保育園の頃から遊びながら習字に親しんできた。小野高校で書道部に入り「ぱっと見た時、かっこいいと思った」と鋭くて角張った造像記の字体にほれ込んだ。

出展作品は2週間かけて3月に書き上げた。「人より何倍も書くのが遅い」という増田さん。加えて、人と関わるのが好きな性格で、同校の書道教室で黙々と書き続けるのはしんどかったと振り返る。

「どんよりした気持ちを振り払おう」と、好きなロックバンド「Mrs. GREEN APPLE（ミセス・グリーン・アップル）」の「ケセラセラ」をイヤホンで流しながら筆を握った。「習ってきたことを意識して書いた成果が出た」と満足する作品ができた。

◇

4月26、27日、同校の文化祭「蜻蛉祭（せいれいさい）」で1～3年時に書いた4作品を展示した。600字の大作を書いたのは初めてで「並べて見て成長を実感できた」という。

書道部では3年生が4月に引退する。蜻蛉祭では同学年の田中円華（まどか）さん(17)、川井紅葉（くれは）さん(17)と3人で、周りを感動させる書道パフォーマンスを披露した。個性が違い、意見をぶつけ合いながら良きライバルとして切磋琢磨（せっさたくま）してきた3人。全国総文に出展できるのは1人だけで、昨年11月の県総文で今夏の全国総文に増田さんが推薦を受けた後はしばらく口をきけなかったというが、今では仲直り。「おめでとう」と祝ってくれた。

増田さんは1年時の11月に新型コロナウイルス感染症にかかった。学校を休んで勉強が遅れ、つらくて登校したくない時期もあったが「書道部では仲間といっぱいしゃべって笑って、からかって…。心の支えだった」と感謝する。

作品は7月31日～8月4日、岐阜県下呂市の下呂交流会館で展示される。

**書道部２年生の２人が全日本高等学校書道コンクールで準大勝（２位の賞）を受賞**

神戸新聞　2024 年４月 20 日（土）　北播磨版　掲載

# 全日本高校書道で準大賞

小野高の２人

## 団体でも初の優秀校に

小　野

「第28回全日本高等学校書道コンクール」で小野高校（小野市西本町）書道部の安岡茜さんと伊藤碧さん（ともに2年）が部門別で最優秀の大賞に次ぐ準大賞に選ばれた。安岡さんは準仮名創作賞、伊藤さんは準硬筆賞。1年時だった昨年12月に作品を応募し、短期間に集中して書いた作品が評価された。

全日本書道教育振興協会主催のコンクールで、部門別の大賞64点に次ぐ準大賞99点に入った。小野高校は団体賞でも最優秀校、特別優秀校各1校に次ぐ優秀校10校に初めて入った。

安岡さんは「うぐひすのなけどもいまだふるゆきにすぎのはしろきあふさかのせき」という後鳥羽院の歌（新古今和歌集）をアレンジした作品を出した。「入部してから仮名を中心に取り組んできた」という。コンクールに出す作品を部室で書く際「これで決めるぞ」と集中力を高め、2枚目に書いた作品が入賞した。

伊藤さんは硬筆で太宰治「人間失格」の一節を書いた。「恥の多い生涯を送って来ました。自分には、人間の生活というものが、見当つかないのです」の書き出しを端正な書体で書き上げた。小1から習字を続け、努力してきた積み重ねがコンクールに生きた。

2人は歴史背景まで学ぶ書道に夢中で、安岡さんは「部活全体で高め合い、顧問の先生に頼らず、自分で大賞を取りたい」、伊藤さんは「硬筆で準大賞に選ばれたので今度は大筆で大賞を取れるようにしたい」と意気込んだ。（坂本　勝）

準大賞に選ばれた安岡茜さん（左）と伊藤碧さん＝小野高校

**加西市が水泳、陸上、フラワーデザインにおいて全国で優秀な成績を収めた３人を表彰**

神戸新聞　2024 年４月 19 日（金）　北播磨版　掲載

水泳、陸上、フラワーデザイン

# 全国で優秀な成績 高校生3人を表彰

加西市

加西市は芸術やスポーツで優秀な成績を上げた高校生3人に、市さわやか市民賞と市文化・スポーツ振興賞賜金を贈った。

小野高校3年（学年は昨年度、以下同）の蔦川真優さんは、昨年7月の県JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会・チャンピオンシップ女子200㍍背泳ぎで優勝。同月の高校総体近畿大会では標準記録を突破し、3年連続で全国大会に出場した。5歳で水泳を始め「記録が伸びないときは辞めたいと思った」と苦しい時期もあったが「楽しみながら泳げるようになった」と振り返る。大学進学後も「全国の舞台で戦いたい」と意気込む。

同高2年の藤本涼哉さんは昨年6月の高校総体近畿予選、陸上競技男子走り幅跳びで5位、全国でも10位に入る活躍を見せた。

播磨農業高校1年の前田夏輝さんは、日本フラワーデザイナー協会（NFD）の「第19回NFD全国高校生フラワーデザインコンテスト」で最優秀の金賞と文部科学大臣賞を受賞。器に見立てたハクサイにダリアやバラを生け、校内の農場で撮影した写真「幸せを生む場所」が評価された。

（敏陰潤子）

さわやか市民賞などを贈られた（左から）藤本涼哉さん、蔦川真優さん、前田夏輝さん＝加西市役所

**科学探究科、ビジネス探究科、普通科の３科合同で探究活動の成果を発表**

神戸新聞　2024 年４月９日（火）　北播磨版　掲載

小野高

## テーマは地域医療、播州弁、未来食…

# ２年生が探究成果を発表

探究成果を英語で発表する小野高2年生＝小野市西本町

小野高校（小野市西本町）の普通科、科学探究科、ビジネス探究科で学ぶ2年生（新3年生）が、1年間探究した成果をポスター形式で発表した。計52班の研究テーマは多彩で「大金持ちになるために」「地域医療の現状と課題」「日本の未来食を考えよう」など興味を引くものばかり。生徒は会場に並んだポスターの前で、招かれた大学教員らに質疑応答を交えて説明した。

３科合同で探究活動を発表したのは初めて。ポスターを指し示しながら研究の目的や方法、成果などを説明。質疑応答を通じ、発表を聞いた人に評価シートを出してもらい、振り返りや改善につなげた。３年時には各研究課題を論文にまとめ、冊子にする。

「本屋の本を買ってもらうには」がテーマの普通科廣田愛紗さん(17)は「私は小説が好き。本を身近なものにして興味を持ってほしい」と訴えた。「キッチンカー経営体験」を発表したビジネス探究科、粂柊吾さん(17)は「毎日の仕事にするのは大変だと感じた」と振り返った。

科学探究科はポスター掲示や質疑も含め、全て英語でやりとりした。「播州弁が与える印象」を発表し、外国語指導助手（ＡＬＴ）の質問に答えた今枝愛里さん(17)と村上幸帆（ゆきほ）さん(17)は「英語発表は初めてで大変だったが、挑戦できて良かった」と話した。

（坂本　勝）

ビジネス探究科３年生が全商検定９種目１級合格の「９冠」３人、「８冠」６人の快挙

神戸新聞　2024 年３月 25 日（月）　北播磨版　掲載

# 全商検定　「９冠」３人　小野高で　「８冠」６人　過去最多

小野高校（小野市西本町）で簿記や珠算など全国商業高校協会の検定試験全９種目で１級に合格する「９冠」が３人、８種目で１級の「８冠」が６人誕生した。８、９冠で計９人は、同校で過去最多の快挙。全員がビジネス探究科の３年生で、入学後に試験勉強を続け、１種目ずつ合格を積み重ねてきた。９冠を達成した生徒は「目標を達成できてうれしい」と喜んでいた。（坂本　勝）

９冠を達成したのは友田優作さん、西岡真実さん、藤原桃花さん。ビジネスに必要とされる簿記▽会計実務▽ビジネス情報▽プログラミング▽商業経済▽ビジネス文書▽英語▽電卓▽そろばん一の９種目に合格した。

学校の定期考査や部活動などにも取り組みながら取得を重ねるのは至難の業だ。藤原さんはそろばんが苦手で、触ったことがある程度だったが、教えてもらいながら合格にこぎ着けた。「１年時からの目標を達成できてうれしい」と喜んだ。英語が苦手だった友田さんは「大変だったが、入学時の目標を達成できた」と充実した３年間を振り返った。

西岡さんは「プログラミングでつまずいたが、過去の検定問題を解いていくうち、ポイントが分かった」と乗り越えた。

８冠合格者は加幡彩夏さん、河合多香蘭さん、北山彩香さん、佐藤葵さん、中川和真さん、増岡里音奈さん。６人は「もっと早く取り組んでいれば」と悔やみつつ「苦手な種目に時間を割いた」「電車の通学時間も検定の勉強に充てた」「こんなに頑張れるんだ、と自分で驚いた」と努力の跡をかみしめた。

下級生には「１、２年時から挑戦すれば９冠がもっと増える」「１回で合格するつもりで集中して」「最初から諦めずに受けてみることが大事だ」などと助言した。

同校で９冠３人は４年ぶり２度目。８冠６人は過去10年間で最も多かった。

ビジネス探究科３年の９冠合格者（前列）と８冠達成者＝小野高校

「目標達成うれしい」

**高校生４人が福崎町の手話言語条例に向けた検討会に小野高生も参加**

神戸新聞　2024 年３月 19 日（火）　西播磨版　掲載

手話言語条例制定に向け、検討会に参加する高校生ら＝福崎町福田

# 高校生グループ 検討会発足

## 手話言語条例制定目指す福崎町

## ろう者への聞き取りや先行事例学ぶ

手話を言語として使いやすい環境を整えるため「手話言語条例」の制定を目指す福崎町に、高校生でつくる条例検討会が発足した。他の地域の事例を学んだり、地元のろう者への聞き取りを行ったりして夏にも同町へ試案を示す。

同町は昨年４月、障害のある人向けのダンス教室を開く一般社団法人「アートファンク」と関西福祉大（赤穂市）の３者で、誰もが暮らしやすい町に向けた連携協定を結んだ。同９月には、障害の有無にかかわらず楽しめる「手話ダンス甲子園」を初開催した。

検討会はアートファンクが「パラファンク学生グループ」と題し、２月に始めた。現在は同町在住で姫路高校２年の小畑優悟さん(17)と北山陽翔さん(17)、龍野北高校を今月卒業した松井悠莉乃さん(18)、加西市在住で小野高校１年の阿部叶直（やすなお）さん(16)―の４人が参加する。

検討会では他地域の条例を参考にしながら、福崎に合った内容と、その理由を盛り込んだ案を作る。今後、関西福祉大の教授らを講師に招いて月２回、オンラインで勉強会を開くほか、神崎郡内のろう者らと会って生活での困り事や必要な支援について聞き取る。

今月８日、グループの顔合わせがあった。高校で福祉を学び、耳の聞こえない高齢者と関わった松井さんは「生活で感じる不便を聞き、みんなの夢を応援できる案にしたい」と話す。

７月ごろ、提案内容の完成を目指す。参加希望者の受け付けはアートファンクの阿部裕彦代表☎０９０・３２６７・３１２０

（喜田美咲）

**放送部の生徒が「犯罪被害者向けの手引き」を録音し県警のＨＰにアップして感謝状**

神戸新聞　2024 年２月 28 日（水）　掲載

# 音声で犯罪被害者を支援

## 県警ＨＰで制度や相談窓口案内

### 小野高放送部 読み上げを担当

兵庫県警のホームページ（ＨＰ）に、犯罪被害者向けに支援制度や相談窓口を記した手引の音声案内が完成した。視覚障害者だけでなく、被害を受け、文章を読む気持ちになれない当事者や家族の助けにもなる。県警は読み上げを担当した小野高校（小野市西本町）放送部に感謝状を贈った。（坂本　勝）

犯罪被害者向けの手引の音声案内を録音した小野高校放送部の平野真菜さん（前列左）ら＝小野市西本町

県警は手引の点字版冊子も作っているが、視覚障害者から「点字を読むのは大変。声で聞ける方が助かる」と助言を受けていたという。

小野高校放送部は全国高校野球選手権で司会を務めたり、ＮＨＫ杯全国高校放送コンテストで上位に入ったりと活躍している。県警から協力依頼を受けて、刑事手続きの説明などと合わせて手引を読み上げ、録音した。

同校であった感謝状贈呈式で、県警警務課の栢野（かやの）健次課長は「被害者支援が社会で大切な位置づけになる中、被害者の皆さんに喜んでもらえる」と述べた。藤本葵さん（1年）と分担して録音した平野真菜（まな）さん（2年）は「刑事手続きには難しい言葉が多く、戸惑ったが、被害者支援につながればうれしい」と話した。

県警ＨＰの「各種相談」「犯罪被害・交通事故にあわれた方へ」から聞くことができる。

**ビジネス探究科１年生が訪日向け旅行プランを作成して英語で発表**

神戸新聞　2024 年 1 月 19 日（金）　北播磨版　掲載

訪日客向け旅行プランを英語で発表する生徒＝小野高校

# 小野高生 訪日客向けプラン作成

## マレーシアの大学職員に発表

## 金物体験など英語で提案

小野市西本町、小野高校ビジネス探究科の1年生がインバウンド（訪日客）向け旅行プランを英語で作成し、同校を訪れていたマレーシアの私立テイラーズ大学の職員らに発表した。2025年の大阪・関西万博も見据えた取り組みで、多文化共生を体現する同大学の特長も聞いた。

テイラーズ大学はマレーシアでトップ級の評価を受ける大学。日本を含む各国から留学生を受け入れ、学生1万6千人中、留学生が3割を占める。学生課長のラジャ・エドリアナ・バイズーラさんと、主任のムハマッド・ハイルウ・ハズリムさんが訪れた。

授業は全て英語で実施され、1年生は4班に分かれて旅行プランを説明。イチゴの収穫体験や淡路人形浄瑠璃、三木市の金物の歴史文化体験、兵庫県の風土に根ざした食を巡る旅などをユーモアも交えて発表した。「旅行プランの期間や開催日は」などラジャさんの質問にも答えた。

ラジャさんは、大学を紹介する動画を上映。花見美咲さん(16)は「タブレット端末の操作に手間取って焦ったが、テイラーズ大学の帽子ももらえてうれしかった」と喜んだ。

（坂本　勝）

**野球部の生徒が小学生に野球教室を開いて野球の楽しさを伝える**

神戸新聞　2024 年 1 月 16 日（火）　北播磨版　掲載

# 白球追う楽しさ 児童に

## 小野高野球部の教室に75人

小学生に野球の楽しさを伝えようと、小野高校硬式野球部が小野市西本町の同校グラウンドで少年野球教室を開いた。古タイヤ内側の円に投球できた数を競う「ストラックアウト」や、部員が児童に交ざるベースランニング競走など、練習メニューを部員が工夫して考案。参加した市内スポーツ少年団6チームの男女75人が笑顔でプレーに熱中した。

野球の魅力を伝え、競技人口を増やそうと10年以上前から開く。指導を受けた後、同校に進んで野球部に入ったり、大学や社会人でも競技を続け、活躍したりする選手もいるという。教室では部員がキャッチボールで捕球の大切さを指導。走塁では速度を落とさないコース取りなどを伝え「いいよ」「ナイスプレー」と児童を褒めた。ホームラン競争や球速を測るスピードガンコンテストもあり、児童は歓声を上げて楽しんだ。

ベースランニング競走を楽しむ児童と野球部員＝小野高校

オール下東条スポーツ少年団で小学6年の松井勇人投手（12）は「教え方が分かりやすくて面白く、うまくなった気がする。野球を続けて勝つために生かしたい」と喜んだ。小野高2年の大達快主（おおだちかい）将（16）は「僕自身も小野スポーツ少年団の時に野球教室に参加し、励みになった。野球を楽しんで続けることにつながれば」と期待した。（坂本　勝）

**ビジネス探究科３年生が課題研究発表会で課題研究の成果を発表**

神戸新聞　2024 年 1 月 12 日（金）　三木版　掲載

ビジネス探究科の課題研究発表会で賞を受けた生徒たち＝小野高校

# 小野高生、課題研究の成果披露

## 「小中で金融教育を」「食品ロスを削減」

## 学びの実践、地域貢献など提言

小野高校（小野市西本町）で、ビジネス探究科の3年生が課題研究の成果を披露する発表会があった。7班に分かれ、1年間の学びの集大成を報告。審査の結果、「小中学生にも金融教育を」と呼びかけた教育班が1位に選ばれた。

生徒は情報技術（IT）を活用した学びや多世代交流など、多様な研究に取り組んできた。発表会は12分の持ち時間で、同科2年生や審査員らに説明した。

教育班の演題は「さあ、投資の授業を始めよう！～僕らが考えるミライの金融教育」。小3から中3にかけての指導計画を「お金って何？」「お金と社会の仕組み」「貯蓄以外にお金を増やす秘訣」と学年ごとに紹介。貯蓄から投資への転換、投資を通しての社会貢献や自己実現を教育の目標に掲げた。

村佐心優さん(18)と桜井萌花さん(18)は「金融教育という難しい内容を評価してもらえた。投資の大切さを早く学べるように実践してほしい」と望んだ。

2位は、食と農業班の「捲土重来～食品ロス削減そして播磨に貢献」が入った。北播磨の農園や加工業者と協力し、規格外の農産物を使ったり、特産品入りの菓子を作ったりし、食品ロス削減を実践。地産地消に取り組む洋菓子店やカフェ、農園など8カ所を特集した冊子も作った。北垣愛和さん(18)と野平優奈さん(18)は「地域の人とつながりができた。完成した冊子を配布し、多くの人に知ってほしい」と話した。

両班は2月3日に神戸市長田区である全国高校生徒商業研究発表大会県大会に出場する。

（坂本　勝）

※　神戸新聞記事については神戸新聞社に使用許諾申請を行い掲載許可取得済み